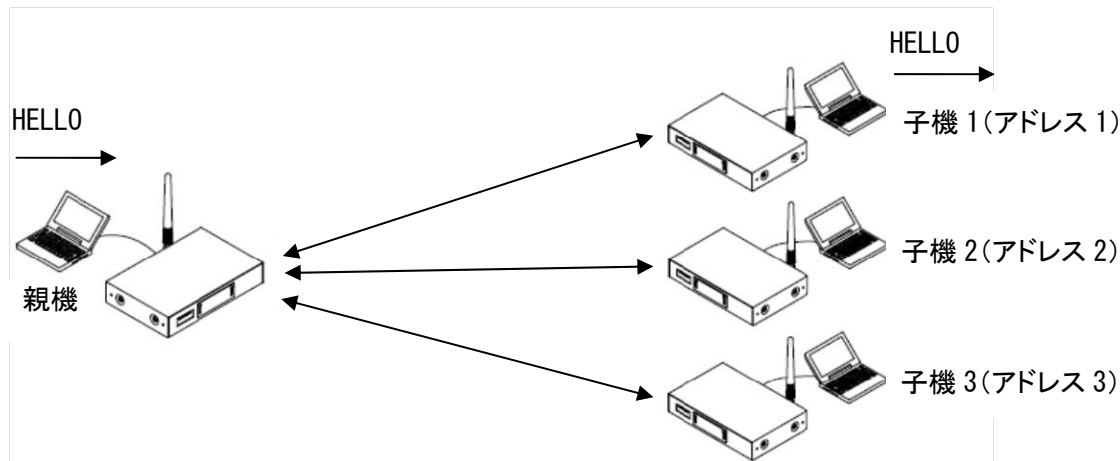


## データ透過モード（通信モード 2: コマンド接続モード）

### 1. システム構成

送信するデータをフリーフォーマットで入力して、送信します。  
 設定はメモリレジスタで行い、1:1 通信、1:N 通信が可能です。  
 回線の接続/切断をコマンド（CON/DCN）により行います。  
 アドレスを指定することで、複数の通信相手を切替えることができます。



### 2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No. 8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

### 3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

#### 【親機】

```

REG00:00H   (アドレス 0)
REG01:F0H
REG02:00H
REG03:F0H
REG04:00H
REG05:00H
REG06:A3H   (周波数グループ:3 波モード、グループ番号 3)
REG07:05H
REG08:11H
REG09:13H
REG10:40H
REG11:32H
REG12:B4H
REG13:1EH
REG14:00H
REG15:01H   (コマンド認識インターバル:0.1sec)
REG16:32H
REG17:32H
REG18:2DH   (データ透過モード、コマンド接続/切断モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H   (ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H   (RS232C:38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H
REG22:00H
REG23:00H
  
```

|   |   |   |
|---|---|---|
| <b>【子機 1】</b><br>REG00:01H (アドレス 1)<br>REG01:F0H<br>REG02:00H<br>REG03:F0H<br>REG04:00H<br>REG05:00H<br>REG06:A3H (親機同様)<br>REG07:05H<br>REG08:11H<br>REG09:13H<br>REG10:40H<br>REG11:32H<br>REG12:B4H<br>REG13:1EH<br>REG14:00H<br>REG15:01H (親機同様)<br>REG16:32H<br>REG17:32H<br>REG18:2DH (親機同様)<br>REG19:40H (親機同様)<br>REG20:07H (親機同様)<br>REG21:09H<br>REG22:00H<br>REG23:00H | <b>【子機 2】</b><br>REG00:02H (アドレス 2)<br>REG01:F0H<br>REG02:00H<br>REG03:F0H<br>REG04:00H<br>REG05:00H<br>REG06:A3H (親機同様)<br>REG07:05H<br>REG08:11H<br>REG09:13H<br>REG10:40H<br>REG11:32H<br>REG12:B4H<br>REG13:1EH<br>REG14:00H<br>REG15:01H (親機同様)<br>REG16:32H<br>REG17:32H<br>REG18:2DH (親機同様)<br>REG19:40H (親機同様)<br>REG20:07H (親機同様)<br>REG21:09H<br>REG22:00H<br>REG23:00H | <b>【子機 3】</b><br>REG00:03H (アドレス 3)<br>REG01:F0H<br>REG02:00H<br>REG03:F0H<br>REG04:00H<br>REG05:00H<br>REG06:A3H (親機同様)<br>REG07:05H<br>REG08:11H<br>REG09:13H<br>REG10:40H<br>REG11:32H<br>REG12:B4H<br>REG13:1EH<br>REG14:00H<br>REG15:01H (親機同様)<br>REG16:32H<br>REG17:32H<br>REG18:2DH (親機同様)<br>REG19:40H (親機同様)<br>REG20:07H (親機同様)<br>REG21:09H<br>REG22:00H<br>REG23:00H |
|---|---|---|

#### 《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお薦めします。
- 上記レジスタ以外に、全無線機の周波数バンドを合わせる必要があります。周波数バンドは **@FBD** コマンドで設定します。(プログラムバージョン 8.3 以降)
- レジスタ設定を反映させるには、**@RST** コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。
- 複数の周波数を使用するグループモード(ここでは 3 波)を使用する場合、再送回数は使用する周波数の 2 乗倍以上の回数にしてください。

## 4. 通信手順

(1) 親機(アドレス 0)から、子機 1(アドレス 1)への通信

```
[親機] > @CON001[CR][LF]
      < P1[CR][LF]
      < P0[CR][LF] (回線接続 正常終了)
      > HELLO
[子機 1] < HELLO
```

(2) (1)後に、子機 2 への通信

```
[親機] > @DCN[CR][LF]
      < P1[CR][LF] 、 <P0[CR][LF] (回線切断 正常終了)
      > @CON002[CR][LF]
      < P1[CR][LF] 、 <P0[CR][LF] (回線接続 正常終了)
      > HELLO
[子機 2] < HELLO
```

#### 《注意事項》

- 子機から親機への接続要求や、子機から子機への接続要求も可能です。
- LED は回線接続中は、C0 のみ緑点灯で、それ以外は赤点灯になります。データ入力時は、送信側の SD が緑点灯、受信側は RD が緑点灯して、送信/受信が終わると C0 以外赤点灯に戻ります。
- コマンドヘッダは有効です。コマンドヘッダをデータとして送信する場合は、コマンド認識インターバル (REG15) を適切な値に設定してください。詳細は、取扱説明書をご参照ください。